

2024年6月13日

学校法人三幸学園
大阪医療秘書福祉&IT 専門学校
校長 山本 稔 殿

学校関係者評価委員会
委員長 岡田 智之

学校関係者評価委員会実施報告

2023年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 岡田 智之 (社会福祉法人 邦寿会高殿苑 施設長)
- ② 川瀬 澄香 (卒業生)
- ③ 江頭 宏明 (飛鳥未来高等学校 教頭)

2 学校関係者評価委員会の開催状況

2024年6月13日 (会場 大阪医療秘書福祉&IT 専門学校 202教室)

3 学校関係者委員会報告

以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2023年度 学校法人 三幸学園 大阪医療秘書福祉&IT 専門学校 自己評価ならびに学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 満重 美絵

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長：岡田 智之

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、医療分野の学校として「医療現場で医療事務・診療情報管理を通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、医療分野として「相手のこうしてほしいを理解し、考え続ける人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

・教育理念の浸透

入学前のオープンキャンパスにおいて教育理念をつたえる「保護者説明会」を設定し、学校選びの段階から教育理念の浸透に力をいれた。また、日々の教務において、不要なルールを見直し必要なものについては、なぜ必要なのかを納得させる事を大切に考え教育理念の浸透に努めた。

・積極的な人材採用

授業の質の担保と継続的な教育体制の構築のため、積極的な新規採用を実施した。ベテラン講師に属人化しない体制構築を進めた。

・学生の受け入れ募集

日々の教育を SNS など発信することで教務や行事と広報を連携し教育の周知拡大に努めた。一昨年度よりオープンキャンパスの動員は増加したが、入学率は低下し入学者増加には至らなかった。

② 学校関係者評価委員会コメント

岡田委員(介護福祉科):介護業界は専門学生を採用するのは極めて難しく、積極的な人材採用に向け10年前から高校訪問を実施しており、今では福祉科のない普通科の高校にも足を運んでいる。例年、数名就職してくれていたが、今年は0だったのが現状である。統廃合でお付き合いのあった学校がなくなってしまったことや、そもそもの生徒数が減っていることが原因ではないかと考えている。

川瀬委員(医療秘書科・診療情報管理士科):医療事務での高校生採用はあまりないのが現状である。看護助手では高卒採用もあるが採用が決まったとしても長く続かないことが多く、職業理解や社会人としての意識が必要だと感じており、専門学校が担える役割は大きいと感じるため、ひき続きより良い教育をしていただきたい。

江頭委員(医療秘書科・診療情報管理士科・介護福祉科):将来、人の役に立つ仕事に就きたいと考えている高校生はたくさんいるが、医療事務や介護の仕事の内容が分からず、「人の役に立つ＝医療・介護」と結びつかないので、自分の将来の選択肢に入ってこないように感じている。更に通信課程の高校生だと、資格を取るとなると勉強を計画的に行うことになるので、そこをネックだと感じている。保護者をうまく巻き込み教育理念の浸透をはかっていただきたい。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

- ・少子高齢化社会・生成 AI の進化など社会の変化に合わせた学校の将来構想を考え直す必要がある。介護福祉士や IT 人材は今後人材不足も予想されているので、受け入れ体制や募集方針も見直す必要がある。
- ・生徒・保護者等に対して、理念・目的・育成人材像は周知しているが、将来構想についてはあまり周知していない。

② 今後の改善方策

- ・社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を定め、生徒や保護者等にも周知する。
- ・介護福祉士や IT 人材に関しては特に強化すべき点として受け入れ体制を見直す。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

川瀬委員(医療秘書科・診療情報管理士科・介護福祉科):入職時の説明会や退職時の面談に保護者がついて来たこともあり、近年、親のオーバーケアを感じている。専門学校での育成人材を保護者にも周知することが大切であると思う。その為には、入学前のオープンキャンパスでも保護者に向けて伝え続けていただきたい。

岡田委員(介護福祉科): 20 歳を越えていない方が遅刻や欠席が多い場合、保護者に現状の確認と今後の相談の連絡を行うこともあるが、こちらの学校での内定者では実施したことがなく、信頼をおいている学校である。

江頭委員(医療秘書科・診療情報管理士科・介護福祉科):保護者から求められる生徒対応のレベルが過剰だった場合、そういった保護者に対して学校側の考えや目的を理解いただく難しさを感じると共に大きな課題とも考えている。

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

①課題

・情報システム化が進み業務の効率化が進む一方で、使用ツールの変化や複雑化により扱う事が高度になって
いるため、苦手な方への対応が課題である。

② 今後の改善方策

・人事、給与に関する制度が2024年から改定された。教職員の理解・浸透に尽力する。
・コンプライアンスの理解、適切運用の為、常勤教職員に対して動画研修を実施した。単年で終わらずに引き続き
理解浸透に努める。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

岡田委員(介護福祉科):介護業界では大阪府からの補助金等もあり、AI システムの導入をはかっている。職員
への教育環境を整えてられていないことが課題だと感じている。さらに、システムを導入する場合、利用者様のご
家族へメリットを説明し使用していくように意識しているが、運用によってはクレームに繋がることもある。機器の取り
扱い方法が最優先ではなく、人の介護をするための効率化を図ることを目的に使用しているため、介護者への思
いやりを忘れてはいけないと思っている。

川瀬委員(医療秘書科・診療情報管理士科):院内での個人情報の取り扱いについて、病院職員が受診した場
合、他の職員が電子カルテ内の診療情報を閲覧できてしまうため、個人情報やプライバシー保護の観点では大き
な課題である。

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	3
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

- ・新規採用の非常勤講師や勤続年数が長い教員でも、より教育理念の浸透が必要な部分もある。
- ・職員研修についてオンデマンド動画などを使用した効率の高いものが多いが、授業力の向上の為に授業を見学・評価する体制は不十分である。

② 今後の改善方策

- ・新規採用者に対し継続して理念浸透を図るため、全体会議等で繰り返し教育理念や人材育成像を伝える。
- ・オンラインの研修に頼りすぎず、相互の授業見学とフィードバックの体制を構築する。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

岡田委員(介護福祉科): 文書を書くこと・読むことができない新卒者が多いと感じる。更に、電話対応ができないことも多くあり、社会人基礎力として専門学校での教育に力をいれてほしいと感じる。

江頭委員(医療秘書科・診療情報管理士科・介護福祉科):読み書きについては低下が顕著。自分で考えることへの苦手意識を持つ生徒が多かったことにより、学習指導要領が変わり、教員の働き方の問題もあるがより良い教育に取り組んでいただきたい。高校でも学習指導要領が変わったことで、今後 2、3 年で生徒層が変わる可能性が高いので、そうなった時の専門学校での教育活動も見据えることが重要である。ただ、学習指導要領が変わっても教員がそれを教える能力を上げないと生徒は変わらないのでその点が課題である。

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	3
資格(免許)取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

- ・IT や美容医療など新設学科コースの就職に関して新規開拓が十分ではない。
- ・目標喪失や進路変更で新入生の退学率が高い。

② 今後の改善方策

- ・新設学科コースの就職先開拓を計画的に進める。
- ・生徒指導において、ルールではなく目的・理由を1つ1つ説明し納得させることを大切に考え、指導に当たることで指導のすれ違いによる退学を防止する。
- ・「こころの相談室」を「生徒相談室」と名称を変更し、精神面以外にも学習面など様々な悩みを相談できるスクールカウンセリングを設置する。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

教員中嶋さん(介護福祉科):生徒と施設のマッチングは重要だと考える。今後も学校として就職先が連携を取ることも重要だと考えている。

岡田委員(介護福祉科):一期生からお付き合いしており、たくさんの生徒と関わってきたが、施設とのマッチングに考慮いただいているおかげで一番信頼できる学校であると感じている。

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	4
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

- ・就職率を上げることに意識が向きがちで就職をしていくことへの意識づけや指導が弱い部分がある。
- ・卒業生に対する支援体制は様々あるが、周知浸透に課題がある

② 今後の改善方策

- ・昨年度に引き続き、外部講話等も実施し就職していくことへの意識づけの指導に注力する
- ・卒業生から同窓会幹部を選出し、卒業生自ら同窓会を運営していく仕組みを作ることで支援体制の周知浸透にも努める。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

江頭委員(医療秘書科・診療情報管理士科・介護福祉科): 高校での進路ガイダンスの一環として授業体験を実施いただき、生徒が職業の内容に触れる貴重な機会となっている。

川瀬委員(医療秘書科・診療情報管理士科・介護福祉科): 卒業生として母校から支援があることは関わりを持ち続けていくうえで大切なことだと考える。力を入れていただけるとありがたい。

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

・施設の老朽化により修繕の必要な箇所が確認されている

② 今後の改善方策

・全面的な施設の修繕を実施できるか検討。特に劣化が著しい箇所については早急に対応する。
 ・避難経路や防災について引き続き全体会議でも認識をそろえて安全に対する意識向上に努める

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

岡田委員(介護福祉科):防災安全の意識は義務化されているので敏感に取り組んでおり、学校としても重要なことであると考え。実習生は毎回受け入れをしているが、今後も連携して実施していきたい。

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

- ・医療秘書科、医療事務科など医療事務員の養成学科においては特に近年著しく入学希望者が減少している。
- ・オープンキャンパスの在校生スタッフにおいて、在籍している学科に偏りがあり教育成果を伝える上で不十分な学科もある。

② 今後の改善方策

- ・入学希望者が減少している学科においても、職業の魅力を SNS 等を使い積極的に発信する。
- ・オープンキャンパス在校生スタッフについて追加募集を実施し、その際に特にスタッフの在籍者の少ない学科に関しては教育成果をしっかりと伝えられる環境を作っていく。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

岡田委員(介護福祉科):大阪市からの要望で介護業界を目指す若者を増やすためにツールを作成し発信しているが、現状増加には至っておらず、専門学校でも業界の魅力を伝えることを引き続き実施いただきたい。

江頭委員(医療秘書科・診療情報管理士科・介護福祉科):そもそもの職業の内容が分かっていない高校生が多く、自分が多く利用し身近に感じる接客業や職業のイメージが沸く YouTuber を希望する生徒が多い。インターンシップ実習などで業界のリアルを見せ、身近に感じる環境を整えると生徒募集に繋がると思う。

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第3次中期計画(2023年度～2027年度)の初年度であり、ホームページ上に公開している。今後は当該計画の達成状況等についても公開予定である。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

なし

④学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

・特になし

② 今後の改善方策

・特になし

③ 特記事項

・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

① 課題

・社会・地域貢献など外に目を向ける教育が弱い傾向にある。

② 今後の改善方策

・卒業生を活用して地域貢献として、高齢者や未就学児のいる家庭の地域の方に向けてのイベントを企画。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

岡田委員（介護福祉科）：介護業界もまだボランティアについて、まだまだコロナ前には戻らない状況であるが
 今後は開始する兆しがあるので、その際は是非取り組んでいただきたい。

川瀬委員：（医療秘書科・診療情報管理士科）医療に特化した内容のボランティアとなると厳しいが、他のごみ拾いや何かのサポートのボランティアの参加でも地域貢献には繋がると思う。

(11)国際交流(必要に応じて)

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	3
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	4
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	3
学内で適切な体制が整備されているか	3

① 課題

・介護福祉士や IT 人材など留学生が活躍できる職種の養成校でありながら、言語や文化の違いなど教職員の抵抗も強く、受け入れについて批判的な声も聞こえる。

② 今後の改善方策

・留学生サポート教員を採用し留学生が学びやすい環境を整える。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

岡田委員:(介護福祉科)実習で受け入れを行っているが、内定は出していないという状況である。他の介護施設は外国人を多く雇用している。学校として適切に受け入れをしていただきたい。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

岡田委員(介護福祉科):一期生から長きにわたり関わってきたが、施設とのマッチングに考慮いただいているおかげで信頼できる学校であると感じている。今後とも連携して介護福祉業界の発展を目指したい。

川瀬委員(医療秘書科・診療情報管理士科・介護福祉科):卒業生としても入学者が減少していることは杞憂している。職業の魅力がしっかりと伝わり業界を目指す方が一人でも増えることを期待している。

江頭委員(医療秘書科・診療情報管理士科・介護福祉科):時代変化にともない本校のような通信制高校を選択する方が増えてきている。専門学校入学者においても、今後さらに多様性を求められる時代となることが予想されるが、変化に対応しながらも社会と繋ぐ役割を担っていただきたい。